とうきょう すくわくプログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム version up

令和7年3月

目次

Ⅰ．とうきょう　すくわくプログラムについて・・・・・・・・・・3

Ⅱ．探究活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅲ．実践協力園における探究活動の事例・・・・・・・21

	活動テーマ	園名	ページ
1．自然	自然	三光幼稚園	22
	自然	渋谷保育園	23
	自然（公園）	亀戸第二保育園	26
	園庭の自然と自分	白金台幼稚園	28
	ミミズ(土の中の世界)	ありんこ保育園	30
2．色	色	塩崎保育園	31
	色	山谷かきのみ園	33
3．音	音	聖愛幼稚園	34
	音	福生杉ノ子保育園	35
4．その他	空	聖愛幼稚園	36
	白菜	若葉保育園	37
	こんにゃく	まんとみ幼稚園	38
	ぐるぐる	すみれ保育園	39
	白	西麻布保育園	41
	光と鏡	伊皿子坂保育園	43

Ⅳ．コラム：探究活動における工夫・・・・・・・・・　44

Ⅴ．実践協力園以外の園における探究活動の事例・・・46

	活動テーマ	ページ
1	音	47
2	音	48
3	穴	49
4	布	50
5	数	51
6	雨	52
7	風	53
8	からだ	54
9	ふわふわもこもこ	55
10	物のなりたち（構造）について	56
	様々なテーマで広がる取組	57

Ⅵ．活動を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・59

とうきょう すくわくプログラムについて

令和５年度の実践協力園の実践を踏まえ、**探究活動の工夫**や**子供の好奇心・探究心を高めるヒント**を、具体的な活動事例とともに、令和6年3月に「とうきょう すくわくプログラム」として取りまとめました。
令和６年度は、「とうきょう すくわくプログラム」の全域展開に伴い、新たな活動事例を追加し、バージョンアップを行いました。

「とうきょう すくわくプログラム」とはすべての乳幼児の「**伸びる・育つ(すくすく)**」と「**好奇心・探究心(わくわく)**」を応援する幼保共通のプログラムです。乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため、**主体的・協働的な探究活動**を通じて**幼児教育・保育の充実**を図ることを目的としています。
プログラムでは、各園の環境や強みを活かしながら、「光」「音」「植物」など各園が設定するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践することで、乳幼児の成長・発達をサポートしていきます。

子供は、日々の遊びの中で、**無意識**に**「探究」を積み重ね**ながら**成長**

プログラムの活用によって、単なる「遊び」にとどまらず、**ねらいや意図をもって**「探究」を実践し、**「探究」プロセス全体の質を向上**

- 好奇心を抱くきっかけを**増やす**
- 思考のループを**広げる**
- 思考のループを**深める**

生涯発達の土台形成

多様な他者との関わりの中で、主体的に「探究」のプロセスを積み重ねることで、意欲・自己肯定感・社会性等の**非認知能力**を培う

活動を通して何かができるようになる、といった結果や目的よりも、**子供たちが自ら興味を持ち、夢中になって遊び、発見する過程を積み重ねる**ことを重視しています。
活動内容はあらかじめ決まっているものではなく、子供たちの興味関心をもとに自由に作り上げていくものです。
各園の環境や強み、すでに行っている活動などを活かしながら、探究活動に取り組んでみてください。

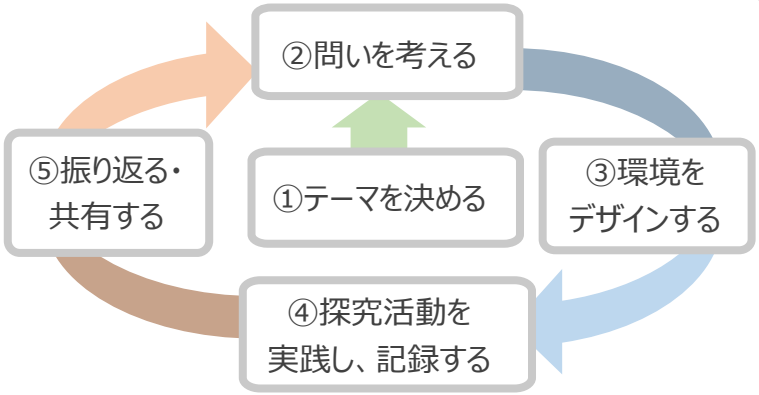
探究活動について

右図の①～⑤のプロセスが基本的な探究活動の流れとなります。

✓ 各園の環境や強みに応じたテーマを設定し、テーマに応じた素材や道具を準備することで**子供たちが遊び込める環境**を整えます。

✓ 子供たちは、子供同士や保育者との関わりの中で、**自ら興味をもって試し、考えながら「探究」を重ねていきます。**

✓ 保育者は子供の問いに対し、単に答えを与えるのではなく、声かけ等の関わりによって**一緒に「探究」を深めていきます**。また、活動を振り返り、子供の好奇心・探究心を更に促せるよう、探究活動のデザイン・実践を繰り返します。



◆「探究活動」に対する園の先生方の声

- 決まった結果があるわけではなくて、ありのまま子供たちが感じて、**子供たちの中で自然にどんどん疑問が増えていく。**
- 一般的な知識などではなく、ありのままの目の前にあるものを**子供たち自身が見て触って感じたものが、知識になる**ということが探究なのかなって感じた。
- 探究をする時は周りが見えなかったり、聞こえなかったりするほど集中して、**答えを探っていき、わくわくして、気持ちが高まっていく。**人にやらされるというよりは、**自分からどんどんやりたいことをする。**
- 自分でいろいろ見て触って、**それを感じたままに、そのまま表現していく。**普段の保育で得意・不得意があっても、**探究は得意・不得意関係なく、誰もが可能性を秘めている**活動。
- 何をやっても**正解や不正解がない。**絵を描く活動においても、みんながみんな全然違う絵を書いたり、違う色を作ったりと、みんなが違うものを作っている。日々の保育では型にはめるというか、一つのことをみんなで一緒にやっているが、探究活動では子供たちのいろんな特徴や個性などを引き出せる。

探究活動の流れ

①テーマを決める

活動の前にテーマを定めます。子供が何を好きか、何に関心を持っているか、子供をよく見て、子供の興味関心を深められそうなテーマを選んでください。

②問いを考える

テーマについて子供がどのような考えやイメージを持っているかを知るために、子供への問いを考えてください。子供がどのように答えるか想像しながら、問いを準備します。

③環境をデザインする

子供への問いをもとに、どのような環境であれば子供の興味関心を深められるかを考え、素材や道具を準備し、環境を整えます。

④探究活動を実践し、記録する

活動中、子供の言葉・表情・ジェスチャー等の多様な表現に耳を傾け、メモ・写真・映像等で記録します。

また、子供の好奇心・探究心を高められるよう声かけ等を行い、子供と一緒に活動を深めていきます。

⑤振り返る・共有する

記録をもとに、子供が何に関心を持ち、何を発見し、どのような表現をしていたかを振り返ることにより、子供の世界について改めて理解を深めるとともに、子供の探究をさらに深めるための新たな問いや環境のデザインを考えます。

必要に応じて、園の内外の保育者や保護者と探究のプロセスを共有します。

活動の流れ：①テーマを決める

活動の前にテーマを定めます。子供が何を好きか、何に関心を持っているか、子供をよく見て、子供の興味関心を深められそうなテーマを選んでください。

【テーマ設定の例】

✓ 子供たちが普段から**興味を持っている**もの
例：自然、石、泥遊び

✓ 生活の中で**身近**なもの、**日常的に触れる**もの
例：音、光、色

✓ 園の**強みや環境**を生かしたもの
例：園の特色である活動（太鼓など）
園のシンボルとなっているもの（オリーブ、柿の木）

✓ 園の**日々の活動や行事**など
例：読み聞かせ（絵本）、定期的な活動（森歩き）
発表会の劇（じごくとてんごく）

活動の流れ：②問いを考える

テーマについて子供がどのような考えやイメージを持っているかを知るために、子供への問いを考えてください。子供がどのように答えるか想像しながら、問いを準備します。

✓ テーマに関して、**子供たちが知っていることや考えていることを聞き出すための問い**を準備します。
決まった知識を子供たちに教えるのではなく、子供なりの考えや理由を聞きながら、言葉、絵、ジェスチャーによる子供たちの表現を拾っていくことを目指します。

✓ テーマについて、**子供がどう捉えているのかを一緒に考える**ことが探究につながります。
また、子供たちがテーマについてどのように考え、どのように理解していくのかに着目することで、
「大人が子供を探究する」活動にもなります。

【問いかけの例】

・ テーマについて、子供たちが持っている考えやイメージを引き出します。

＜例＞「○○ってなあに？」「○○って見たことある？」「○○って聞いたことある？」

・ 活動を重ねるにつれ、さらにテーマを深められるよう、前回の活動をふまえた問いを、次の活動のねらいとして設定します。

＜例＞・「オリーブってなあに？」
⇒「オリーブの色と形をよく見てみよう」⇒「オリーブの木の下はどうなっている？」
・「音ってなあに？」
⇒「身体からどんな音がする？」⇒「心臓からはどんな音がする？」

活動の流れ：③環境をデザインする

子供への問いをもとに、どのような環境であれば子供の興味関心を深められるかを考え、素材や道具を準備し、環境を整えます。

例

✓ 様々な素材

子供が選んだり比べたりできるよう、異なる色や形、性質を持つものを準備します。見る、触る、味わう、匂いを嗅ぐ、音を聴く、など諸感覚を使いながら子供が興味を持って素材について知り、子供の表現を広げられるようなものを選びます。

例

✓ 画用紙

普段から使っている決まったサイズや形だけでなく、子供たちの**考えや表現に合わせて素材を選べる**環境を整えることで、子供たちの想像力が引き出されます。

・大きさや形

四角だけでなく、丸い紙、長いロール紙、模造紙などを使うことで、みんなで協力して一つの作品を作る、それぞれが描いた絵が自然と繋がっていくなど、活動の幅が広がります。

・材質、色

様々な色の紙、光の透過性や材質が異なる紙を使うことで、発色の違いや絵の雰囲気の違いが生まれます。

活動の流れ：③環境をデザインする

例

✓ 様々な画材

・マジックペン、クレヨン、絵の具など子供が使いたい道具を自由に選べるように準備します。
・三原色（赤・青・黄）のみの絵の具を使うことで、子供が自由に色を作り出すことができます。
・子供の表現を制限しないよう、絵の具などの素材を、ある程度自由に使える環境を整えることも重要です。

✓ 筆

本物の動物の毛で作られた筆（羊、馬、豚、たぬき、りすなど）を使うことで、子供たちが知っている動物をイメージしながら、筆と自分の関わりを感じ、道具がより身近に感じられるようになります。

✓ 透明の水入れ

筆を洗う水入れを透明なものにすることで、色の変化を見ることができます。水入れの中は偶然に色が変わっていくため、色の変化を知ったり、水入れにできた色からお気に入りの色を見つけるきっかけにもなります。

✓ みつろうクレヨン

ミツバチが作ったみつろうからできたクレヨンは、子供たちにとって身近なミツバチやはちみつとのつながりを感じられます。さらに、重ね塗りをすることで色が混ざるため、自由に色を作ることができます。

活動の流れ：③環境をデザインする

例

↑複数の種類の虫眼鏡

↑マイクロスコープとタブレットを使って葉の表面を拡大している様子

✓ **虫眼鏡**
✓ **マイクロスコープ**

子供が見たいものに合わせて、道具を選べるように複数種類の道具を準備します。

例

✓ **OHP（投影機）**
✓ **トレース台**
✓ **ライトテーブル**

光を当てることで、いつもとは違った見方で物を見ることができます。

✓ **懐中電灯**

興味を持ったものに光を当ててよく見てみたり、セロハンを貼って光の色を変え、色の重なりを楽しんだりすることもできます。

✓ **プロジェクター**

子供たちが描いた絵を投影することで、子供たちの想像の世界を全身で体感し、遊ぶことができます。また、光を利用して影遊びを楽しむことも可能です。

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

テーマに関する問いと環境を準備し、探究活動を行います。子供の好奇心・探究心を高められるよう声かけ等を行い、子供と一緒に活動を深めていきます。

✓ **子供への声かけ**

探究活動においては、正解や間違いはありません。子供たちが**テーマについて向き合い考える過程そのものを重視**し、子供たちが自ら探究し、安心して自分を表現できるような声かけをしていきます。
また、結果や成果物を求めるのではなく、テーマとする**素材そのものにじっくりと向き合ってみる**時間も大切です。

・子供たちの感覚について問いかける

＜例＞「どんな匂い？」「どんな形？」「触るとどんな感じがする？」「どんな音が聞こえる？」「どれが好き？」

・子供の姿を見守る

＜例＞
- 園児Aが絵の具の活動の際、筆を洗う水の色が変わることに興味を持ち、水の色が変わることを楽しんでいた。そこで、好きなだけやってもらうことにしたところ、普段集中することが難しい子だったが、40分近く集中して楽しんでいた。これにより、色水遊びに満足し、絵の具は楽しいというイメージがついたからか、次の活動では、すんなりと絵を描く活動に集中していた。
- 園児Bは普段から最初に周りの様子を見てから参加することが多いので、探究活動の際も本人の気持ちを待ったところ、しばらく他の子たちが楽しくやり始めているのを見たあと、自然と活動に混ざっていった。

＜園の先生の声＞
- 子供たちに様々な体験をしてほしいとの思いから声をかけ、働きかけてしまうが、**見守り待つことの大切さを学んだ。**
- つい声かけをしたり、手助けをしてしまいがちだが、**あえて手を出さないことで子供たち自らがいろいろ考えていくことを実感**した。

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

✓ **グループに分けて活動する**
クラスを複数のグループに分けて探究活動を行うことで、活動がさらに深まります。

＜グループの分け方＞
・普段一緒に過ごしているグループで分ける
⇒自分の意見を言いやすく、相手の意見も聞きやすい
・普段関わりの少ない子同士で組む
⇒活動をきっかけとして新たな関わりが生まれる
・物事への関わり方が似ている子、違っている子を組み合わせる
⇒子供たちが安心して活動できたり、他の子供からの影響を受けて新たな自分に出会うことができる

＜グループ分けに対する園の先生の言葉＞
・子供**一人ひとりをよく見て、じっくりと関わることができる。**
・普段の日常では拾いきれないような子供**一人ひとりの発言や気づき、アイデア**を聴くことができる。
・子供たちが友達の意見に影響されながら、自分の意見をアウトプットするなど、**みんなの声がみんなに届き、お互いに考える**ことができる。

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

✓ **活動を記録する**

活動中、子供の言葉・表情・ジェスチャー等の多様な表現に耳を傾け、**メモ・写真・映像等で記録**します。

・子供たちは活動の中で**様々な疑問**を持ち、**子供たちなりの仮説**を立てながら考えを深めていきます。
その過程を記録することで、子供たちの考えを知ることができます。

＜例＞・葉っぱは時間が経つとなぜ色が変わるのか？
⇒「お水がないから」「葉っぱはどんどん上から枯れていく」
・木の下（土の中）はどうなっているか？
⇒「地面の中にも枝がある」「地面の下に川がある」

・子供たちの姿や言葉をもとに、**次の活動へつなげていく**ことも重要です。

＜例＞・ペンで絵を描く活動を行った際、色を混ぜたがる姿
⇒三原色の絵の具を混ぜて絵を描く活動を展開
・絵を部屋に投影して振り返った際、プロジェクターの光に興味を持っていた姿
⇒プロジェクターや懐中電灯を用いて、光と影で遊ぶ活動を展開
・色に対する「きれい」「あたたかい」という言葉
⇒子供たち一人ひとりが考える「きれい」な色、「あたたかい」色とはどんな色かを深めていく

活動の流れ：⑤振り返る・共有する

記録をもとに、子供が何に関心を持ち、何を発見し、どのような表現をしていたかを振り返ることにより、子供の世界について改めて理解を深めるとともに、子供の探究をさらに深めるための新たな問いや環境のデザインを考えます。必要に応じて、園の内外の保育者や保護者と探究のプロセスを共有します。

✓ 先生同士で振り返る

振り返りでは、**活動中には聞こえなかった子供の声**や、**見えなかった姿**を知ることができます。活動を振り返りながら、子供たちの姿を言葉にして分かち合う中で、「今回はこういうことができたんだ」「この子はこんな考えを持っていたんだ」といった発見をしながら、**次の活動のヒントを得る**ことができます。

✓ 子供たち同士で振り返る

- 見つけたものや作ったものなどを、子供たち自らがカメラなどで記録することで、**自分の探究活動を振り返る**ことができます。また、**子供たちが興味を持っているものや、好きなものなどを写真を通して知る**ことができます。
- 友達が見つけたものや作品を写真に記録したり、撮った写真を掲示して共有したりすることで、**新たな発見**につながります。

活動の流れ：⑤振り返る・共有する

✓　子供たちの活動を保護者に共有する

・探究に取り組む子供たちの様子を、子供たちの写真や描いた絵を通して保護者に共有することで、子供たちが探究活動について保護者に説明するきっかけになります。
・保護者向けの展示会を開催したり、実際に子供たちが行った探究活動を体験できるコーナーを設置したりすることで、**親子が一緒に探究活動を深める機会**にもなります。

＜観覧された保護者の感想＞
・子供たちの想像力と生き生きした様子が感じられた。
・子供たちが楽しそうなのがうれしかった。
・子供の自由な発想に驚かされた。

✓　他園の先生と共有する

活動を他の園に共有することで、**それぞれの園における活動のためのアイデアや新たな気づきを得る**ことができます。また、先生にとって協働的な学びの場にもなります。

＜他園の振り返りに参加した先生の感想＞
・自分の中での振り返りになった。子供たちが何かに気づけるよう、**言葉かけを見直さなくてはいけない**と思った。
・活動を**自分の園にも取り入れていきたい**。保育者の気づきも大切ということを他の職員にも伝えたい。

探究活動によって見られた子供の様子

✓ 自信を持って自分を表現する姿

- 普段の制作活動では自信のない姿が見られた子も、**探究活動では正解がない**ため、生き生きしていた。
- いつも他の子を見たり、真似をして絵を描く子も、活動では**周りを見ず自分の絵を真剣に描いていた。**
- 普段は躊躇したり他の子の真似をしたりする子も、それぞれが**自分の意志をはっきり持って**、使いたい色を選んでいた。
- グループに分けることで**子供たちの発言が普段より増え、積極的に自分から動く**など、活動的になっていた。
- 最初は「(絵を描くことを)できない」と言いながらも、**描き始めるとイメージがわいてきて止まらず**、絵を描くことを楽しんでいた。
- 当初は、子供たちが自分の考えを発表することに戸惑っている様子も見られたが、**回を重ねるごとに様々な意見や面白い答えが出てくる**ようになり、子供たち自身も**必ずしも正しい答えが必要なわけではない、ということが分かってきた**ようだった。

✓ 集中して取り組む姿

- **0歳児も、長い時間一人で探究に集中**していた。
- 身近な素材一つとじっくり向き合うことで、普段よりも**長い時間、飽きることなく集中して遊び続けていた。**

✓ 友達との関わりを深めていく姿

- 一人の子の発言をきっかけに話が展開していった。**互いに考えを否定することなく、受け入れながらも、自分の意見を発表してお互いの考えも聞く、**という様子が見られた。
- 一人ひとりが自分なりの表現をする活動であるため、**自分の良さと他の子の良さを知るという良い経験**ができている。

探究活動によって得られた保育者の気づき

✓ 「探究活動」について

- **試行錯誤**の中で取り組み、最初は「これでよいのだろうか？」と悩んだが、活動を重ねていくうちに子供たちなりの考え（声）が聞かれるようになりました。今までは活動を行うだけで終わっていましたが、**活動の中で子供たちがこんなにも考えているんだなと気付かされ、それぞれの子に対して新たな一面を発見できました。**
- 「探究」という言葉を難しく捉えすぎていた教員たちにとって、**子供個々の実態や学年の発達に応じた探究行動があり、それを十分に保障することが大切である**ことを学ぶ良い機会となりました。
- 探究心を育てることは、普通に保育の中で実践していたつもりでしたが、**こんなに奥深いものであったのかと改めて考えるきっかけ**になり、子供たちの様子を見ていると、この実践がとても面白くなりそうな気がしています。
- 子供の主体性を大切にした活動を進めていますが、**一つのテーマを決めて探究活動をするという内容が新たな試み**で勉強になりました。

✓ 活動中において

- 子供たちの**探究している様子を見守り、待つことの大切さや環境の構成の大切さに改めて気づき**、考えるようになりました。
- **素材の設定から遊びが展開し、遊びの幅が広がることを再認識**しました。
- 言葉の一つひとつを保育者が受け止めることで、**子供の感性や遊びが広がる**のだと活動を見ていて思いました。
- **安心して「探究活動」ができる環境を作り、手を出しすぎずに子供たちを見守る**という時間は、保育者にとっても、子供たちにとっても大切な時間だと改めて思いました。

探究活動によって得られた保育者の気づき

✓ 振り返りにおいて

- **子供の視線や行動の意味、心の動きに敏感**になり、何を見てこの動きになったのか、この動きはどうつながっていくのかなどを深く考えるようになりました。
- **「子供たちは何を見て」「何を感じているのか？」振り返りの時間が大切**で、職員と共有することの大切さを学びました。
- 毎回**振り返ることで子供たちは自分が思ったこと、感じたこと、気づいたことなどを積極的に発言**することが多くなりました。
- クラスでの振り返りでは、子供の足りない面を主に話が進んでいくことが多いですが、**探究の振り返りでは、一人ひとりの考えにポイントを置いて話が進んでいっていた**のが印象的でした。

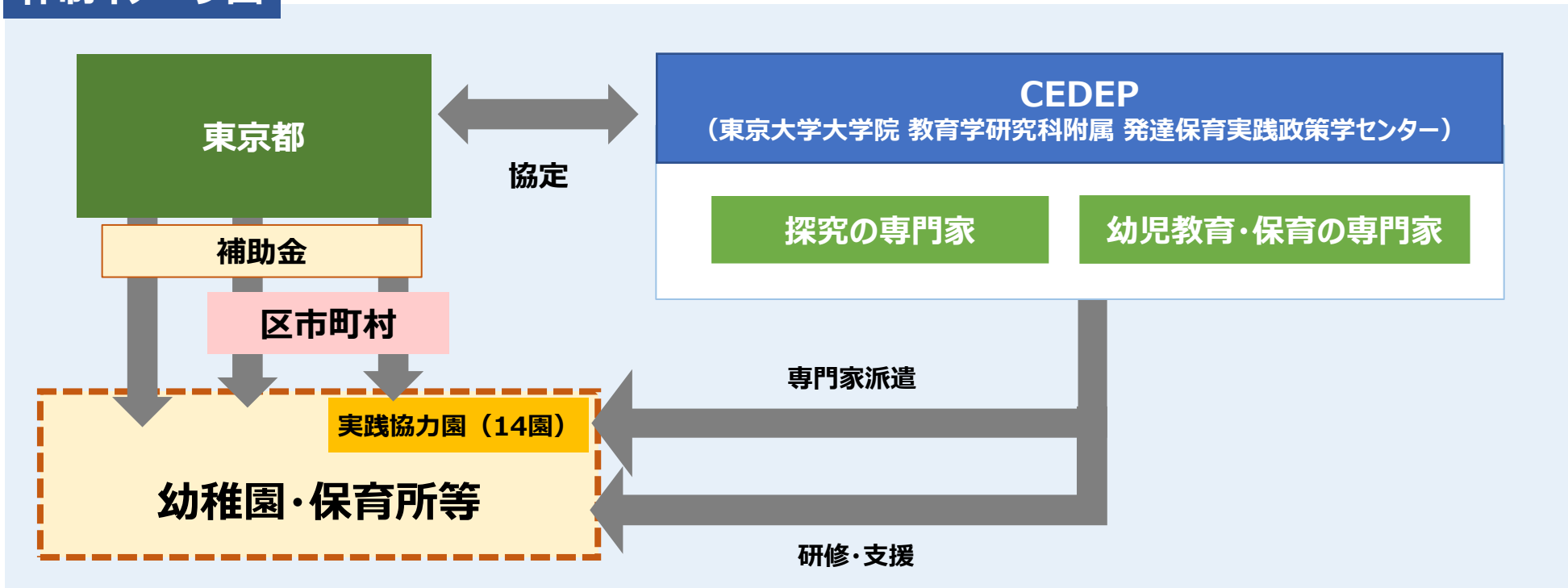
✓ 活動後において

- 以前よりも子供たちの声や疑問に耳を傾けるようになり、**こんな考えをしていたのかと驚いたり感じたりする**ことが増えました。
- **普段の保育も指示出しではなく、「どうする？」と子供たちの意見を求めることが増えた**ように思います。その結果、**子供たちも自らの希望や意見を言うのが「当たり前」になってきた**ように思います。
- **保育者が子供と共に楽しみ、共感し、わくわくすることで遊びや探究がより発展していく**と感じました。
- **子供たちの自由な発想には大人がつい手を出したくなってしまったり、素材がもったいないと感じてしまったりする**こともありましたが、その**ブレーキをかけずに思うままに表現することを支えるのが保育者の役割である**のだと感じ、私自身の保育を立ち返るきっかけとなりました。

令和６年度　とうきょう すくわくプログラム推進事業について

本事業は、幼保共通の「とうきょう すくわくプログラム」に基づき、各園の環境や強みを活かしながら、各園が設定するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践する幼稚園・保育所等を支援することにより、幼児教育・ 保育の充実を図ることを目的としています。

体制イメージ図



令和６年度　実践協力園一覧

連携自治体	区分	園名
港区	公立	三光幼稚園
	公立	西麻布保育園
	公立	白金台幼稚園
	公立	伊皿子坂保育園
江東区	公立	塩崎保育園
	公立	亀戸第二保育園
	私立	まんとみ幼稚園
渋谷区	公立	渋谷保育園
	公立	山谷かきのみ園
福生市	私立	すみれ保育園
	私立	聖愛幼稚園
	私立	ありんこ保育園
	私立	福生杉ノ子保育園
	私立	若葉保育園

実践協力園における探究活動の事例

都内４自治体の実践協力園において行われた探究活動事例の一部をご紹介します。

テーマ：自然

三光幼稚園（港区）

● **テーマを設定する**

昨年に引き続き、園庭を活かして自然の探究をより深めたいという先生たちの思いをもとに、テーマを設定した。

活動　～自然の観察と表現（５歳児）～

● **問いを考える**

グループごとに園庭にある自然の中で異なる対象物を定め、それぞれに触れ、考えを深めたうえで身体や描画で表現した。

● **環境をデザインする**

インスタントカメラ

✓ 各グループのテーマに合わせた道具
①「池の水」：刷毛・水入れ
②「モクレン」：紙・鉛筆
③「果実」：泥粘土・園庭の果実（みかん、かりん、柿など）
④「芋づる」：芋づる・芋・石・綿・葉っぱ・花

● **探究活動を実践する**

✓ **グループ①：「池の水」**

園内の池の水を手で触れて観察した後、池の水を使い、刷毛でコンクリートの地面や土の地面、木の表面などに水を塗って描いた。透明なので最初は見えないが、フェンスなど色のついた物の上に水で描くと色が濃くなり、見えるようになることなどを発見していた。

✓ **グループ②：「モクレン」**

ウォーミングアップとして、指を使って自分の身体の硬いところや柔らかいところなどを触り比べた後、モクレンに触れて観察した。そして、「モクレンの顔はどこだろう？手はどこだろう？」などの問いかけをもとに、モクレンの形を身体を使って表現した。

✓ **グループ③：「果実」**

ウォーミングアップでは足を使い、ジャンプなどをしながら自分の身体の重さを感じる活動を行った後、果実の重さを手で感じたり、形をよく見る、頭や膝に乗せる、匂いを感じるなど全身を使いながら観察した。その後、自分だけの果実を土粘土で作り、大きさや重さなどを表現した。

✓ **グループ④：「芋づる」**

「お芋はどうやってこの中にいたんだろう？」と問いかけ、お芋のある花壇の「地面の下の世界」を想像した。その後、実際に土を掘り、根っこが広がっている様子や、ミミズなどの生き物、土の匂いや質感を観察した。そして園庭のグラウンドに、園で育てた芋のつるを広げて「つるの続きを地面に描く」活動を行った。

● **振り返りをふまえた気づき**

グループ①では、透明な水が地面など他のものと触れ合うことによって色が変わったり、描いた絵が乾いて消えていく様子に、自ら興味を持って探究する姿が見られた。

園でいろんな遊びをしてきた子供たちだからこそ、テーマを広げながら思い切り活動することができていた。

テーマ： 自然

渋谷保育園（渋谷区）

● **テーマを設定する**

子供たちにとって身近な「自然」の色や形、感触、時間による変化や美しさについて、五感や言葉、思考を通して表現する。今年度は園庭工事のため園庭で自然に触れられないため、公園や園内で「自然」に意識的に向き合う。

活動① ～自然ってなぁに？（５歳児）～

● **問いを考える**

「自然ってなんだろう？」という問いをもとに、自然に触れ合うことをねらいとした。

● **環境をデザインする**

代々木公園に行き、緑や土を感じられるスペースを見つけ、エリアを絞って活動を行った。

● **探究活動を実践する**

導入として、「自然ってなぁに？」と問いかけた後、代々木公園に向かった。葉っぱを観察したり、花びらのある花とない花を見つけたり、花の中をのぞく、木や枝を叩いて音を比べるなどの様子が見られた。また、木の箱に気が付き、ボランティアの方に「虫の入るお家だよ」と教えてもらうなどの関わりも見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

五感を使いながら、様々な発見をしていた。外に出ることで、子供たちのいろいろな発想が出ていたことが感じられた。

活動② ～自然の色探し（５歳児）～

● **問いを考える**

活動①において、木や葉っぱなどの色に興味を持っていた子供たちの姿から、色に着目し、「自然の色を見つける」をテーマとした。

● **環境をデザインする**

画用紙、透明のシート、クレヨン、色鉛筆

● **探究活動を実践する**

活動①で印象的だった自然の写真を見た後、写真を公園に持っていき、公園で見つけた自然を画用紙に表現した。

● **振り返りをふまえた気づき**

前回は木陰に入らなかった子が、今回は自ら入っていった姿に驚いた。「絵の具で描きたい」という子供もいたため、絵の具で描く機会も提供したい。

活動③　～自然の色を考える（５歳児）～

● 問いを考える

自然の色についてさらに掘り下げ、これまでの公園での活動を振り返りながら、自然の色について話し合った。

● 環境をデザインする

絵の具、パレットシート、自然物

● 探究活動を実践する

「自然にはどんな色があった？」「色はどんな風に変わっていく？」「自然が成長するってどういうことかな？」など、自然の色や変化について話し合った。また、本物の自然の色または思い描く自然の色のどちらかを選んでもらい、パレット紙の上に絵の具で広げながら、思い思いの自然の色を作った。

● 振り返りをふまえた気づき

昨年行った「音」の探究とのつながりも見られ、これまでの探究が子供の中で積み重なっていることが感じられた。また、最後にお互いの色を褒め合う姿も見られた。

活動④　～自然の形を考える（５歳児）～

● 問いを考える

活動③において、自然の形に興味を持っていた子供たちの姿から、「自然にはどんな形があるのだろう？」という問いを設定した。

●環境をデザインする

観葉植物、公園で拾ってきた葉っぱ、OHP、卓上ライト、懐中電灯、トレース台、黒色のクレヨン、水性ペン、白い紙　など

● 探究活動を実践する

観葉植物等の様々な自然を光を通して観察し、自然の形を捉え、描いて表現した。

● 振り返りをふまえた気づき

子供たち各々が別の道具のある場所で活動していたため、グループとしてのアイデアの共有や意見交流の機会に乏しかったため、もっと子供同士の交わりが生まれるようにしたい、という反省と目標が出ていた。

活動⑤ ～自然を色と形であらわす（５歳児）～

● 問いを考える

自然の探究のまとめとして、色と形の両方に着目し、グループで考えを共有しながらどのように描いていくか話し合い、表現する。

● 環境をデザインする

模造紙、透明のシート、カラーペン、黒サインペン、絵の具、懐中電灯、卓上ライト トレース台、拾ってきた自然物など

● 探究活動を実践する

自然物やドキュメンテーションなど、今までの学びのプロセスを残し、いつでも振り返れる環境の中、1枚の大きな模造紙に、グループで自然を描く活動を行った。長い時間をかけて葉っぱや石の色に近い色を作ったり、描きたい葉っぱを縁取りながら描くなど、様々な方法で自然を描いていた。

● 振り返りをふまえた気づき

ペンで絵を描く際は、植物の細部を観察しながら繊細に描いていたが、絵の具になると大胆に表現する姿が見られた。

活動 ～ 土粘土と出会う（０歳児）～

● 問いを考える

「0歳の子供たちがどのように土粘土と出会うか」を問いとした。

●環境をデザインする

柔らかく黄色い粘土と、少し硬い白い粘土の2種類を用意した。

● 探究活動を実践する

硬さや色の異なる粘土を2種類用意し、粘土に触れ合う活動を行った。とても積極的に、手や足で粘土に触れたり、粘土の上に座ってみたり、白い粘土が割れたことに興味を惹かれる姿も見られた。

● 振り返りをふまえた気づき

足を粘土の上に置いたり、粘土を足でなでたりするなど、足から慣れて、足で確認する姿に驚いた。他の年齢とは異なる方法で、身体全体を使って粘土と触れ合う様子があった。

テーマ： 自然（公園）

亀戸第二保育園（江東区）

● **テーマを設定する**

園庭がない園において、散歩をする公園での自然との触れ合いに着目し、公園の自然を園内に取り入れながら、「子供たちにとっての公園とは何か」について探究する。

活動① ～公園のイメージを描く（3歳児）～

● **問いを考える**

散歩で訪れた公園で拾ってきた自然物（石、葉っぱ、花、実など）をもとに「みんなが見た公園をかく」活動を行った。

● **環境をデザインする**

ロール紙と蜜蝋クレヨン、公園で拾ってきた自然物を用意した。

● **探究活動を実践する**

初めて使用したロール紙の上を走ったり、蜜蝋クレヨンで混色を楽しむなど、素材そのものを楽しむ活動を実施した。

葉っぱや実、石に色を塗ったり、絵の上に自然物を重ねることで「木」を表現したりした。

● **振り返りをふまえた気づき**

公園のイメージについて、遊具よりも子供たちが拾ってきた自然物や動植物を描く様子が見られた。

活動② ～公園の体験を探究（3歳児）～

● **問いを考える**

公園で虫を見ると喜ぶ子供たちの様子から、虫との関わりを中心に据え、虫に親近感を持つことをねらいとした。

●**環境をデザインする**

ニジイロクワガタやダンゴムシ、メダカなどがいる「飼育」のブース、上皿天秤のある「量る」ブース、虫の目線になってくぐる「トンネル」のブース、枯れ葉の中に虫のぬいぐるみを置いた「枯れ葉」のブース、お絵かきができる「表現活動」のブースを設けた。

● **探究活動を実践する**

水槽の中のめだかを観察する、クワガタの重さを比べる、花壇にある花を摘んで水槽に浮かべる、など子供たちが思い思いの方法で自然に触れる活動を実施した。

● **振り返りをふまえた気づき**

普段の公園では、「花は摘んではいけない」などの制限が多いが、今回の活動では制限を設けないことで、子供たちがやりたい体験ができていた。

亀戸第二保育園（江東区）

活動① ～土と触れ合う（１歳児）～

● 問いを考える

普段は砂に触れる経験を積むことが難しいため、初めて触れる土粘土に対し、「土にどのように親しんでいくか」という問いをもとに活動した。

● 環境をデザインする

透明のシートの上に、土粘土と植物のプランターを準備した。活動の展開に応じてバケツに入れた水も使用した。

● 探究活動を実践する

手や足を使い、全身で土粘土に触れながら感触を味わう活動を行った。しばらく土粘土に触れた後、水が入ったバケツを出したことで、土粘土の感触の変化を楽しむ様子が見られた。

● 振り返りをふまえた気づき

初めは先生の真似をしながら、慎重に土粘土を丸めたりつぶしたりしていたが、次第に子供たちの表情が和らいでいき、先生が子供たちの安全基地となり、先生を介して少しずつ粘土と関わっていた。

活動② ～黒土と砂の探究（１歳児）～

● 問いを考える

黒土と砂を準備し、違いを感じながら全身で感触を楽しむことをねらいとした。

●環境をデザインする

透明のシートの上に、トロ舟に入れた黒土・砂を準備し、竹や流木などの自然物を入れた。

✓ 黒土と砂の両方を同時に触れられるよう、２つのトロ舟をくっつけて並べた。

● 探究活動を実践する

黒土と砂の感触の違いを繊細に感じながら、自然物を使って黒土や砂に触れ合う活動を実施した。前回の土粘土の活動では、足で踏むことができない子供も多くいたが、今回はトロ舟に入った黒土や砂の上を子供たちが楽しそうに歩く様子も見られた。

● 振り返りをふまえた気づき

静かな環境の中、シャベルなどの道具や水などを使わずとも、子供たちは土との触れ合いを楽しんでいた。

テーマ：園庭の自然と自分

白金台幼稚園（港区）

● **テーマを設定する**

事前に行った先生同士でのワークショップで出てきた言葉である「感性で感じる」を意識し、その土地（園庭）が持っている潜在的な力を子供とリサーチする。

活動①　～子供たちが園庭で自然とどのように出会っているかリサーチする（３歳児）～

● **問いを考える**

子供たちに園庭のことを教えてもらう。常に変化のある自然の、その時々と出会う。

● **環境をデザインする**

レインコート

✓　自然そのものの魅力と触れ合えるよう、園庭にあるものを片付けるなど、適宜調整した。

● **探究活動を実践する**

園庭を散策し、子供たちが見て触れるものを通して園庭について探究した。雨の中、初めは戸惑いながらも園庭を駆け回り、雨と自分が奏でる音を楽しんだり、水たまりの中の砂や泥を触って感触や水の冷たさを確かめたりする姿が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

3歳児の感性で純粋に出会うものや感じるものを、大人も一緒になって感じる視点を持つことができたのが新鮮だった。自然というテーマは自由度が高く、発想次第で様々な可能性がある。

活動②　～子供たちが園庭で自然とどのように出会っているかリサーチする（３歳児）～

● **問いを考える**

子供たちに園庭のことを教えてもらう。常に変化のある自然の、その時々と出会う。

● **環境をデザインする**

活動①と同じく、自然そのものの魅力と触れ合えるよう、園庭にあるものを片付けるなど、適宜調整した。

● **探究活動を実践する**

前回の活動を写真と音声により振り返り、雨の日の園庭を思い出したり、新たにイメージを膨らませたりした。その後、今回は晴れた日の園庭を散策した。子供たちは、風の音や鳩の声を聞き、空を見上げたり地面に目を凝らしたりしながら、人工物や自然物問わず、グループによって様々なものに興味を示していた。

● **振り返りをふまえた気づき**

子供から出てくるものをあえて待ち、子供が自由にできる時間を保障することの可能性を感じた。

活動③　～園庭の観察から室内での表現へ（３歳児）～

● 問いを考える
園庭で出会った自然と自分がどのように関わるか、手を使って表現する。

● 環境をデザインする
園庭の自然物（木の枝や実、葉っぱ、砂など）
✓ 広いホールで窓を開けることで、室内ではあるが園庭との繋がりを意識した環境を設定した。

● 探究活動を実践する
ホールにて園庭の自然物を用意し、一つ一つを手に取って丁寧に観察した。また、大きな木の板の上に自由に素材を配置・構成し、表現する活動を行った。

● 振り返りをふまえた気づき
園庭の自然物それぞれについて、子供によって遊び方や捉え方、イメージが異なっていた。外にあるものを室内に移動させて環境として設定することで、子供が感じるものや関わり方が変わることに気付いた。さらに、前のグループが何に気づき、大事にしていたかをもとに環境の設定を変え、次のグループへつないでいくことで、子供たちが他の子の気持ちや考えを受け継ぐ様子が見られた。

活動④　～園庭の観察から室内での表現へ（3歳児）～

● 問いを考える
園庭で出会った自然と自分がどのように関わるか、手を使って表現する。

●環境をデザインする
園庭の自然物（木の枝や実、葉っぱ、砂など）
✓ 今回は3歳児の教室にて、活動③と同様の環境を設定した。

● 探究活動を実践する
今回は活動場所を変え、教室にて園庭の自然物を用意し、改めて素材を観察した。また、用意した大きな板の上に素材を配置・構成し表現する活動を行った。

● 振り返りをふまえた気づき
出会いをコーディネートする環境づくりを学んだ。ねらいの達成や活動への予測といった枠を超えた、活動の「余地」が大切なのかもしれないと感じた。環境を構成すること、探究を促す環境づくりの重要性を実感した。

テーマ：ミミズ(土の中の世界)

ありんこ保育園（福生市）

● **テーマを設定する**

週１回の森の教室（里山での自然体験）では積極的に生き物や植物と関わっている。秋頃に訪れた森では大きなミミズを発見してマイクロスコープで観察したり、棚田の柔らかい土や田んぼの泥に注目していたことから、「ミミズ（土の中の世界）」をテーマとした。

活動①　～　ミミズの世界を想像して描いてみよう（４・５歳児）～

● **問いを考える**

「ミミズってどこから来たんだろう？」という問いから土の中の世界を考え、絵で表現する。

● **環境をデザインする**

画用紙、和紙、トレーシングペーパー、OHPフィルム、クラフト紙（通常のサイズと半分に切った紙も用意）、サインペン

● **探究活動を実践する**

まず森の教室での写真を見ながら振り返りの時間を設け、ミミズの生態や土の中の世界に興味が持てるようにした。ミミズが土の中でバーベキューをしている様子など、それぞれイメージを膨らませながら約１時間程集中して絵を描いていた。

● **振り返りをふまえた気づき**

周囲の友達と会話を楽しみながら、様々な色を使って土の中の世界を表現していた。

活動②　～ミミズの世界を友達と想像して描いてみよう（４･5歳児）～

● **問いを考える**

「今度は土の中の世界を友達と一緒に想像してみよう」という問いから、グループ（３、４人）で協力しながら絵を描く。

●**環境をデザインする**

ロール紙、絵の具、パレット、筆、OHPフィルム、サインペン

● **探究活動を実践する**

グループごとに対話をしながら描く。「これはお母さんミミズ、これは赤ちゃん」と主にミミズの関係性を想像して描くグループ、「ここはキッチン、あっちはベッド」とミミズの部屋の中を想像して描くグループなど、グループによって描き方が全く違った。

● **振り返りをふまえた気づき**

全体での振り返りの中では自分達が描いた絵を堂々と紹介したり、友達の絵について積極的に感想を発表する姿が見られた。探究活動を通して自分の思いを発信する力が伸びている。

テーマ：色

塩崎保育園（江東区）

● **テーマを設定する**

昨年度は「絵本」をテーマとした活動を行ったが、今年度はより様々な素材設定や活動の展開が考えられ、かつシンプルなテーマにしたいと考え、「色」をテーマとした。

活動①　～表情と色の関係の探究（４歳児）～

● **問いを考える**

「色んな表情・感情の色は何色なのか？」という問いをもとに活動を行った。

● **環境をデザインする**

ロール紙、蜜蝋クレヨン

● **探究活動を実践する**

導入として「怒った顔」や「苦い顔」など表情を作ってみたあとに、様々な感情を色でロール紙上に表現する活動を行った。初めて出会う蜜蝋クレヨンなどの素材を楽しみながら、「歌っている顔」や「うれしい顔」を様々な色を使いながら表現した。

● **振り返りをふまえた気づき**

普段は失敗することを気にしやすい子供も、今回の活動では失敗を恐れることなく絵を描くことを楽しんでいた。

活動②　～光の探究（４歳児）～

● **問いを考える**

初めてのOHPにじっくり触れることをねらいとしたうえで、光の探究を行った。

● **環境をデザインする**

白い布をスクリーン代わりに使用し、様々な透明の素材をOHPで投影した。

✓　他グループの活動ではスクリーンの表と裏を行き来する様子が見られたため、スクリーンを天井からつるし、下に空間を作ることで行き来しやすいよう工夫した。

● **探究活動を実践する**

まずはOHPそのものをじっくり観察した。その後、OHPでスクリーンに様々な素材や自分の体を投影した。スクリーンを境界として2つの世界を行き来するなかで、「影の世界」と「現実の世界」と見立てるなど活動に動きが生まれた。

● **振り返りをふまえた気づき**

最初に使用する道具とじっくり関わることで、安心して活動できた様子が見られた。

活動③　～影の国ってどんなところ？（４歳児）～

● 問いを考える

前回の活動で子供たちから出た「影の国」を掘り下げるための活動を行った。

● 環境をデザインする

白い布をスクリーンにし、OHPとともにOHPに投影できる透明のシート、カラーセロファン、カラーマジックなどを準備した。

● 探究活動を実践する

OHPを使ってスクリーンに自分の影を映し、「影の国」を全身で楽しんだ後、子供たちそれぞれが考える「影の国」をシートに描いて表現した。シートをOHPに投影し、それぞれが描いた「影の国」について共有した。

● 振り返りをふまえた気づき

子供たちは「影の国」について様々な色のセロハンやペンで表現しながら、「冷たい太陽」「温泉が凍る」など、影の国にまつわる物語への想像を膨らませていた。

活動④　～色と光の探究（４歳児）～

● 問いを考える

これまでの全身を使った活動とは異なり、光と色の関係性によりじっくり向き合えるような活動を行った。

●環境をデザインする

スタンドライト、色水を入れたペットボトル、アクリルカラー積み木、水槽、赤・緑のプレート、スクリーン、鏡のシート

✓　素材を置くテーブルとスクリーンの距離を近くした。

● 探究活動を実践する

色水を入れたペットボトルを机に並べてスタンドライトを当て、光源の位置や動き、光の色の変化の関係性を探究した。

● 振り返りをふまえた気づき

テーブルに置かれた物の色が映し出される様子や、光を透過した色の美しさに子供たちは声を上げ、自ら探りながら、やりたいことを見つけていた。活動の終盤で、友達の作ったものに光を当て、スクリーンに映しながら、「〇〇くんのきれい」とつぶやく様子も見られた。

テーマ：色

山谷かきのみ園（渋谷区）

● **テーマを設定する**

絵具で色を塗ることや、表現することが大好きな5歳児のクラスにおいて、昨年度に引き続き、「色」をテーマに活動した。

活動 ～ いろ研究所（５歳児）～

● **問いを考える**

自分が好きだな、きれいだな、と思う色に出合う活動を通して、子供たちの思いに触れられるようにする。

● **環境をデザインする**

✓「いろ研究所」で色を作る

赤・青・黄・白の色水
スポイト、試験管
作った色水を入れる袋
パーテーション(板段ボール)

✓ マイクロスコープで色探し

マイクロスコープ、パソコン
園庭の自然物

● **探究活動を実践する**

✓ 「いろ研究所」で色を作る

・「好きな色を教えてくれる？」という問いからスタートした。友達が話した好きな色を作ってみたいという話になり、「いろ研究所」が始まった。赤・青・黄・白の4色の絵の具とスポイト、試験管を準備し、好きな遊びの中で自由に色作りを楽しめる環境を設定した。
・自分が気に入った色ができると、オリジナルの名前を付けたり、学級の集まりでみんなに紹介したりする姿が見られた。
・十分に色作りを楽しんだ後、少人数で共有する場と、学級全体で共有する場を設定した。「見るとどんな気持ち？どんなときに見たい色なの？」と問いかけると、「元気がでる」「体全体がほっとする」など自分の気持ちを言葉で表現したり、「色水さんたちと一緒に遊ぶんだ」と物語にして表現したりしていた。また、全員の色を見て、「虹よりいっぱいの色がある」と色の違いや良さに気づく姿が見られた。

✓ マイクロスコープで色探し

・「葉っぱ色」「空色」など、身の回りの自然と結び付けて名前を付ける姿が多く見られた。そこで、園庭とつなげて、実際に園庭の自然で色探しを行うことにした。
・マイクロスコープをテラスに設定し、園庭と自由に行き来しながら細かいところも見ることができるようにした。１枚の柿の葉の中に色が3色あることや模様があることに気付く姿が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

イメージした色を作る過程で試行錯誤する子、試す中で偶然できた色を楽しむ子など、その子によって探究の仕方が様々であった。色が混ざって変化する様子をじっくり見る姿も見られた。

テーマ：音

聖愛幼稚園（福生市）

● **テーマを設定する**

３歳の子供たちが「雨の音」や「外の音」に関心を持っていたことから「音」をテーマに設定した。また、絵の具を使うこと、色の活動も経験してほしいという先生方の願いから「音から色へ」展開する活動を考えた。

活動①　～「音」ってなぁに？（３歳児）～

● **問いを考える**

「園の中にどんな音があるか探してみよう」「どんな音が好き？」をという問いをもとに活動した。

● **環境をデザインする**

ウッドデッキや中庭にて音を探した。

● **探究活動を実践する**

「音ってなあに？」という問いから始め、園内の音に耳を澄ませつつ、適宜録音もしながら音探しを行なった。ちょうど飛んできていた蝶々から、蝶々の音はあるのかないのか考えたり、ないはずの音を擬音語で表現してみたり、様々な姿が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

音の探究を通して、自分の身体を使って出す音にも興味を持ち、皆で音を聞き合う姿も見られた。また、活動後も音に関する気付きについて、積極的に発言していた。

活動②　～「音」を描く（３歳児）～

● **問いを考える**

前回の活動で見つけた音を絵の具を使って表現する。

● **環境をデザインする**

筆、水入れ、絵の具（赤、青、黄）、ロール紙

● **探究活動を実践する**

グループによって、それぞれ関心のあった「ちょうちょの音」、「すべり台の音」を描く活動を行った。ちょうちょの音は”実際にはない音を想像して描いてみる”、もう一方は”すべり台を滑る自分たちが出す音を描く”という違いが見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

活動の違いによって見られた子供たちの様子について振り返った。また、福生市ならではの「音」として、「航空機の音」についても話題に上がった。

テーマ：音

福生杉ノ子保育園（福生市）

● **テーマを設定する**

昨年度の4歳の子供たちが「音」をテーマとした活動を行っており、5歳でもテーマを継続することとした。

活動①　～絵本の音探し（５歳児）～

● **問いを考える**

絵本の中に出てくる音を表現するため、まずは「身の回りの音を探す」ことから始めた。

● **環境をデザインする**

録音用のスマートフォン

● **探究活動を実践する**

絵本の中に出てくる音を、教室にあるおもちゃで再現する活動を行った。机や箱など、叩く場所によって音が変わることを見つけていた子や、自分の口で音を出していた子など、いろんな音を見つける姿が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

活動場所が広く自由度が高かった分、音に集中することが難しかったのではないかという反省から、「この音はどういう音だと思う？」「何を使ったらその音が出せそう？」といった問いかけがあったらよかった、という意見が出た。

活動②　～絵本の音探しの振り返り（５歳児）～

● **問いを考える**

子供たちが見つけた音を動画で振り返り、絵本の音についてさらに考えを深めた。

● **環境をデザインする**

子供たちが絵本の場面に合わせて作った音を繋げた動画を準備した。

● **探究活動を実践する**

絵本の各場面に合わせて子供たちが見つけた音を、絵本のストーリーと繋げた動画をグループで見ながら感想を聴き合った。「夜だからふくろうが鳴いていそう」「(主人公の)目線が木の上を見ているから、きっと木の上に動物がいる」など、絵本の絵には描かれていないところまで想像して音を作った子もいて、友達の考えに刺激を受け、さらに色々な音を見つけていく姿が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

子供たちがしっかり自分の発見を言葉にしていたり、最後まで飽きずにやっている姿に驚いた。

テーマ：空

聖愛幼稚園（福生市）

● **テーマを設定する**

「空の色」に焦点を当てて三原色で空を表現した活動の際、「さっきまで曇っていたのに晴れてきた」「雨が降りそう」など空に興味を持つ子供たちの様子が見られたことから、空と自然との関係性について深めるため。

活動①　～いろいろな緑をつくる（４歳児）～

● **問いを考える**

園庭に様々な緑があり、空から照らされる光によっても色が変わる中、「なぜ葉っぱは緑なのか」という問いを立てた。

● **環境をデザインする**

絵の具（黄色、青、白、黒）、水入れ、丸筆、平筆、様々な種類の紙（画用紙、模造紙、ワックスペーパーなど）、園庭にある葉っぱ

● **探究活動を実践する**

絵の具で「いろいろな緑を作ってみよう」という言葉かけをもとに、葉っぱを見ながら様々な緑色を作った。

● **振り返りをふまえた気づき**

葉っぱの表と裏の色の違いに気づいたり、「葉っぱにはいろんな色がある」とつぶやく様子が見られた。また、パレットの上で色を作る子、紙の上で色を重ねていく子、筆を洗う水の色に注目する子、筆の使い方を工夫する子など、様々な探究の姿が表れていた。

活動②　～空はどこまでつづいているの？（４歳児）～

● **問いを考える**

「空はどこまでつづいているの？」から始まり、「空にはどんな色がある？」「雲の中には何がある？」といった問いをもとに活動した。

● **環境をデザインする**

ロール紙、絵の具（透明水彩の青・白）、水入れ、平筆など

● **探究活動を実践する**

ウッドデッキで空を観察したり、今までに自分や友達が撮った空の写真を見たりしたあとに、絵の具で空の色を作る活動を行った。「暗い空は水色じゃなくて青色」「空は水でできているから水色」など、子供たち一人ひとりが空の色について考えを深め、表現していた。

● **振り返りをふまえた気づき**

質問を投げかけると、子供たちは空や雲を見ながら確かめていたり、友達の言葉に反応している姿があった。

テーマ：白菜

若葉保育園（福生市）

● **テーマを設定する**

これまで様々な野菜に触れてきた経験から、今回は白菜という題材で子供たちが白菜の何を発見するかを見ていくことをテーマにして活動した。

活動①　～白菜ってなあに？音を聞いてみよう（１歳児）～

● **問いを考える**

「白菜はどんな音がするのか？」を問いとして設定した。

● **環境をデザインする**

シンプルに白菜のみを準備した。

● **探究活動を実践する**

白菜の音の探究を行った。「バサバサ」や「パリパリ」「もじゃもじゃ」といった言葉が子供たちから出たり、白菜の茎の部分を折ったときの音に気づいたりする姿があった。また、指先や身体で様々に白菜を探索して見ている姿が多くあった。

● **振り返りをふまえた気づき**

白菜は、色や厚みの違い、大きさの変化など、魅力的な要素がたくさんあったからこそ色々な発見があった。

活動②　～白菜に触れる（１歳児）～

● **問いを考える**

「白菜はどんな感触か？」を問いとして設定した。

● **環境をデザインする**

白菜、シート

✓　前回同様シンプルな設定だが、グループによって縦または横に切るなど、白菜の切り方を変えた。

● **探究活動を実践する**

丸ごと１つの白菜を用意し、子供たちの前で半分に切り、白菜の感触を味わった。芯の部分は「キュッキュッ」と音が鳴るが、葉の部分は音が鳴らないことに気づいた子、爪を使って白菜の中を見ようとしている子がいた。

● **振り返りをふまえた気づき**

前回と今回の活動の間に先生が子供たちとたくさん白菜に触れていたこともあり、前回よりもさらに白菜の触れ方のバリエーションが豊かだった。

テーマ：こんにゃく

まんとみ幼稚園（江東区）

● **テーマを設定する**

クラスで定期的に料理の活動を行っていたことと、園が近所のこんにゃく屋と古くからつながりがあったことをもとに、切り落としのこんにゃくを使って、こんにゃくをより深く知るためにテーマとして設定した。

活動①　～こんにゃくと出会う（４歳児）～

● **問いを考える**

「こんにゃくと出会う」ことをねらいとし、様々なふれあい方を通してこんにゃくの感触を味わい尽くす。

● **環境をデザインする**

ビニールシート、こんにゃく、水槽、マイクロスコープ、タブレット

● **探究活動を実践する**

触覚を使う活動の導入として、触って物を当てるクイズをしたあとに、思い思いの方法でこんにゃくを触り、感触を味わった。さらに、水槽の中のこんにゃくの浮き沈みの様子を観察したり、黒い粒の発見からマイクロスコープを使ってみるなど、様々な方法でこんにゃくを探究した。

● **振り返りをふまえた気づき**

グループによってこんにゃくへの関わり方に違いが見られ、味覚以外の方法でこんにゃくをじっくり探究していた。

活動②　～こんにゃくの動き（４歳児）～

● **問いを考える**

こんにゃくを子供たちがどう感じたか、どう捉えているかを表現するため、「こんにゃくをよく見て、よく聞く」ための活動を行った。

● **環境をデザインする**

ビニールシート、こんにゃく、水、アクリルの滑り台、鏡、カーテン（鏡をはじめは隠すため）、和紙、グレーと黒の紙、黒とグレーのペン、白色鉛筆

● **探究活動を実践する**

導入として、こんにゃくの動きや音をより豊かに表現できるよう、オノマトペを使った絵本の読み聞かせを行った。そのあとに、「こんにゃくをよく見てよく聞いて楽しもうね」と声掛けをしたうえで、こんにゃくを滑り台に滑らせ、落ちる様子を体の動きや絵で表現した。

● **振り返りをふまえた気づき**

同じこんにゃくが落ちる様子でも、子供たちそれぞれが異なる体の動きや絵によって表現する姿が見られた。

テーマ：ぐるぐる

すみれ保育園（福生市）

● **テーマを設定する**

子供たちがフラフープの「回る」様子に興味を持っていた姿と、園で育てているインゲンやアサガオなどのつるのある植物の成長を楽しみにしている姿などから、「ぐるぐる」について深めることにした。

活動①　～「つる」をよく見る（５歳児）～

● **問いを考える**

「つる」のある植物をよく観察し、「つる」について考えを深めてみることをねらいとした。

● **環境をデザインする**

虫眼鏡、ペン、トレース台など

● **探究活動を実践する**

テラスや屋上に植えられたインゲンやアサガオ、きゅうりなどつるのある植物を中心に、「つるはどこからどこに行くと思う？」などと問いかけながら観察を行った。その後、室内でつるを描く活動を行った。

● **振り返りをふまえた気づき**

つるの観察では「毛が生えているものと生えてないものがある」「つるは下に行く」「茎からつるがつながっている」など、様々な発見をしていた。

また、つるを描く際は、実際に見たつるや机に用意したつるをもとに、子供たちそれぞれの視点から丁寧に描いていた。

活動②　～ぐるぐるってなあに？（５歳児）～

● **問いを考える**

「つる」から派生し、「ぐるぐる」に焦点を当て、「ぐるぐる」を子供たちはどのように作り表現するか、という問いを立てた。

● **環境をデザインする**

模造紙・OHP・ライトテーブル・トレース台・様々な長さや太さ、硬さのひも状の物（紐、毛糸、針金、チューブなど）

● **探究活動を実践する**

様々な素材を使って作った「ぐるぐる」をOHPの光に当て、映し出された光(影)の中に入り込んでみる活動を行った。素材を自らの身体に「ぐるぐる」と巻きつけて、子供たちも部屋中をぐるぐる回る姿も見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

あるグループはつるそのものを素材で表現し、一方のグループはつるに巻き付く自分を表現している姿があり、子供たちそれぞれが「ぐるぐる」のイメージを持ちながら協働していく姿が見られた。

活動③　～「ぐるぐる」の冒険を描く（５歳児）～

● 問いを考える

「冒険」という言葉から楽しいイメージを膨らませながら、「ぐるぐるの冒険」を描く活動を行った。

● 環境をデザインする

白い絵の具、数種類の筆、ビニールシート、黒ロール紙

● 探究活動を実践する

黒い紙に白い絵の具で「ぐるぐる」を描く活動を行った。絵の具が白一色であったため、ぐるぐるを描くことに焦点化された活動になった。

● 振り返りをふまえた気づき

単色のみを使うことで表現に豊かさが生まれ、たくさんのアイデアが生まれていた。また、友達の筆づかいを真似したり、「力を抜くといいよ」などと子供同士でアドバイスをしていたりするなど、筆と絵の具そのものを楽しんでいる様子も見られた。

活動④　～「ぐるぐる」の世界を描く（５歳児）～

● 問いを考える

前回のOHPを用いたぐるぐるの世界に触れた活動を踏まえて、さらに異なる方法でぐるぐるの世界を描く活動を行った。

●環境をデザインする

小さめに切られた数種類の紙、黒の製図ペン(0.05~0.8mm)、ライトテーブル、卓上ライト、トレース台

● 探究活動を実践する

ペンとトレース台を使ってぐるぐるの世界を描いた。あるグループでは、「パン屋」「ホテル」などのはっきりとした自身のテーマにぐるぐるを取り入れる子や、ぐるぐるを描いていく中で「花」などの意味付けをする子などが見られた。

● 振り返りをふまえた気づき

暗い光の中だからこそ、描く活動に集中できている様子があった。各々独自のものを描きつつも緩やかにつながり、かつこれまでの活動の蓄積・イメージのつながりが現れていた。

テーマ：白

西麻布保育園（港区）

● **テーマを設定する**

保育園で身近な存在であるブロックを、どのような環境設定で保育に生かしていくかを検討した際に、「白いブロック」というアイデアが出た。５歳児の言葉にならない感情や言葉以外の表現、価値観を広げるというねらいと、「白」は何にでも見立てられるという可能性から探究が始まった。

活動①　～線のワーク1（5歳児）～

● **問いを考える**

直線的な形状のブロックの特徴から発想して、直線と対照的である曲線など様々な線を描いてみる。

● **環境をデザインする**

多様な画材、白いコピー用紙

✓　道路の見える窓がある、広々したランチルームの床で活動

● **探究活動を実践する**

子供たちと線について話しながら、コピー用紙一枚一枚に1本ずつ線を描いた。好きな太さと色の画材を選び、木の枝や近所の分かれ道を参考にしたり、迷子になった時の話をしたりしながら、「力強くて太い線」「優しい点線」「何本にも枝分かれしていく線」「迷子の線」など、思い思いの線を表現した。最後に全員の線を廊下で繋げてその上を歩き、観察した。

● **振り返りをふまえた気づき**

形のないもの、答えのないものに戸惑いながらも、時間をかけて線を描いていた。

活動②　～ 線のワーク2（5歳児）～

● **問いを考える**

日本の文化でもある和紙に着目し、和紙で線や形をつくってみる。

● **環境をデザインする**

和紙、米糊、白いパステル、黒い紙

✓　道路の見える窓がある広々したランチルームの机上で活動

● **探究活動を実践する**

和紙をよく見て、触り、音を聴きながらじっくりと観察した。そこから手を使ってちぎったり、黒い台紙の上で様々な線や形を表現した。和紙から透ける光を発見する姿、ちぎって出来た形を何かに見立てる姿、米糊で絵を描く姿など、実際に目の前にある素材を、自分の手を使って触れ、感じている様子が見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

答えのない問いを持ち、子供のゼロからの発想を引き出す活動を低年齢から取り入れていかなければと思った。活動のコンセプトは同じでも、グループによって異なる子供の反応や好奇心により、様々な活動が可能であることが分かった。

西麻布保育園（港区）

活動③　～黒に白で描く（５歳児）～

● 問いを考える

子供同士のコミュニケーションを大切にしながら、全身を使って白で表現をする。

● 環境をデザインする

白い絵の具に糊を混ぜたもの、２種類の刷毛、黒いロール紙

✓ ランチルーム全体を養生し、子供たちは裸足で活動を行った。

● 探究活動を実践する

導入として、黒くて長いロール紙のうえで、全身を伸ばし、ロール紙の大きさを感じながら準備体操をした。そして、糊を混ぜた白い絵の具を使って自由に描く表現をした。言葉が先に出てくる子、身体を動かして表現する子、丁寧にゆっくり行動する子など、子供たちの様々な姿とともに、一枚の画用紙のうえで多様で個性的な線や形が重なり、表現されていった。

● 振り返りをふまえた気づき

担任や周囲を気にせず、子供たちは自分から積極的に活動に向かっていったので、身体を使う活動が好きかもしれないと感じた。そばにいる大人も裸足であったことにより、子供たちものびのびとしており、環境によって子供の姿が異なることを実感した。

活動④　～白と黒の世界の探究（５歳児）～

● 問いを考える

ブロックを使い、白の世界の可能性を探る。

●環境をデザインする

黒い台、白いブロック、卓上ライト、Webカメラ、プロジェクター、スクリーンとして使用する白い画用紙

✓ 活動②で使用した和紙や活動③で描いた黒いロール紙も用意した。

● 探究活動を実践する

白いブロックを組み立てる子、和紙で形を構築する子、それらをwebカメラで映し、プロジェクターで映した空間に入りこんでごっこ遊びや影遊びをする子など、様々な姿が見られた。「白いブロックだけでは難しい」「色やキラキラが欲しい」という言葉もあったが、ブロックを使って流れる水を表現したり、光と合わせて影の形を作ったりするなどの様子も見られ、「やってみたら面白かった」という声もあった。

● 振り返りをふまえた気づき

白いブロックに戸惑う子供などに対し、保育者がどのくらい関わり、探究を促したら良いのかとても悩んだ。グループの構成、道具や素材、光、環境一つで子供たちの学びに繋がりが生まれることを実感した。ブロックも、様々な使い方があり、光と組み合わせてみるなど、今回の探究をきっかけとし、さらに広げていきたい。

テーマ：光と鏡

伊皿子坂保育園（港区）

● **テーマを設定する**

カラーセロハンを使ってランタンを作ったり、様々なものを懐中電灯で照らしたりする中で、壁に映る人の影などに興味を持ったりする様子があり、子供の気づきや発見が多く見られたため。

活動①　～くしゃくしゃの紙と葉っぱをつかった探究（４歳児）～

● **問いを考える**

光を使う活動を既に数回重ねていたため、今回は小さなものに光を当ててみる時間を提案し、今までとは異なる方法で光に触れることを目的とした。

● **環境をデザインする**

紙、ハンディライト、画用紙、葉っぱ、ペン類、葉っぱ（子供たちが自分で拾ったもの）、書画カメラ

● **探究活動を実践する**

くしゃくしゃにした紙に偶然できる複雑な折り目を、ハンディライトを当てながら観察した。そのあと、「もしもみんなが蟻くらいに小さかったらこのくしゃくしゃの紙の上でどんなふうに探検する？」と問いかけをしそれぞれ考えたことを共有した。また、画用紙の上に葉っぱを置き、葉っぱにもライトを当て、影をペンで画用紙になぞってみるという活動を行った。

● **振り返りをふまえた気づき**

手元のものをじっと見ることがポイントだったため、自分の近くの世界だからこそ、より集中して活動に入り込めたようだった。

活動②　～ 光の散歩道（４歳児）～

● **問いを考える**

活動①で光に慣れ親しんだため、今回は「光のための道」を作ることにした。

● **環境をデザインする**

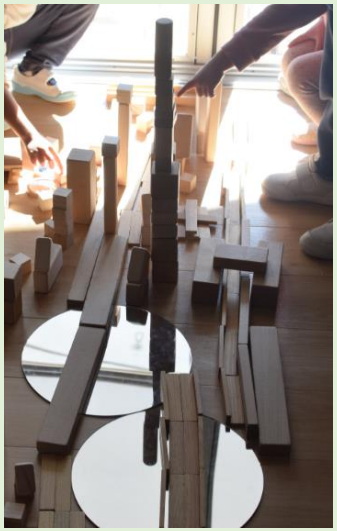
鏡（大型の直径50cm、直径30cm、手の平サイズのものなど）、積み木、カーテン、自然光

● **探究活動を実践する**

今回はハンディライトを用いずに、カーテンの隙間などから部屋に入ってくる光のための道を作る活動を行った。

● **振り返りをふまえた気づき**

強い光、柔らかい光、鏡が反射する光、カーテンの隙間から入ってくる光、動かせる光（ハンディライト）、動かせない光（太陽）など、会話の中で様々な光が登場していた。また、光の入り方が異なるため「夕方にもやってみたい」という声が上がった。



コラム：探究活動における工夫

探究活動を行うにあたり、各園が行った様々な工夫についてご紹介します。

コラム：探究活動における工夫

探究活動を行うにあたり、各園が行った様々な工夫についてご紹介します

探究活動を行うにあたって園で工夫した点はありますか？

○活動のための工夫

- ✓ **探究活動で使う道具などを日常の保育の中にも取り入れて**子供がその道具に親しめるようにしている。
- ✓ **他のクラスの活動も見学**しあい、年齢別の違いなどを共有している
- ✓ 研修や園全体での振り返りを通して、**担当職員以外からの意見**をもらい、参考にした。

○振り返りにおける工夫

- ✓ 園全体で取り組むため、**活動に参加していない保育者、探究活動をしていないクラスの保育者にも参加を呼びかけ**て、活動の様子や探究活動とはどのようなものなのかを伝えていった。
- ✓ **園内研修の一環として探究活動の報告を取り入れ、**感じたことを話し合い共有している

＊振り返りに参加した職員の意見

- ➢ 少人数でのディスカッションだと意見が出しやすい
- ➢ 保育の話をする機会がなかなか取れない中、互いの保育観を知る貴重な時間となる

子供同士での振り返りはどのように行っていますか？

- ✓ 活動時間の終わりに、各グループごとで**振り返りを行うとともに次に繋がる活動内容を一緒に考え、話し合う**時間を作る
- ✓ **撮った写真を大きなモニターに映し**、皆で見ながら活動を振り返る
- ✓ 活動後に描いた絵や作品をお互いに見せ合いながら、**自分が頑張ったところを発表したり、友達の良いところや素敵だなと思うところ、質問などをする時間**を設ける

保護者への共有はどのように行っていますか？

- ✓ クラスだより、アプリでの写真共有、園HPにおける発信
- ✓ 作品展の開催中に**探究活動のコーナーを設け**、写真や映像を交えながら取組の様子を見て頂く
- ✓ 保護者の懇談会などでモニターを使って、**映像を見せながら**探究活動について知らせる
- ✓ **保護者も子供たちと一緒に探究活動を体験する機会**を設ける（例：「自然」をテーマとした活動において、保護者と一緒に公園を探究する「**探究遠足**」 など）

実践協力園以外の園における探究活動の事例

令和7年度より全域展開している当プログラムの実践について、
都内の幼稚園・保育所等における探究活動の取組の様子をご紹介します。

テーマ：音

● **テーマを設定する**

普段から音に興味を持ったり、様々な音に気付く様子が見られる。視覚障害の子供たちが在籍する盲学校において、生活の中の音や様々な楽器の音を聴くことで、音に親しむ経験を積み、音に対する感受性を高められるようテーマを設定した。

活動の流れ

●音探しの活動として、生活用具やおもちゃなど身近なものを使って、日常生活で聴く身近な音の面白さに気付いたり、生き物や自然、日常生活の音と似た音を探したりする活動を進めてきた。また、発表会では、他クラスの前で探した音のクイズを出したり演奏したりした。
●今後は、これまでに触れた楽器などから、絵本の読み聞かせに合わせて、お話に合う音を見つけ、表現する活動を展開していく。

活動事例　～音探し（３・５歳児）～

● **問いを考える**

身近な物の音探しや新しい楽器とのふれあいを通じて、「どんな音がある？」「どの音が好き？」などと問いかけながら、音探しを行った。

● **環境をデザインする**

大小のゴムボール、サウンドブロック、スリットドラム、タングドラム

✓ 音に敏感な子供たちなので、心地よい音色のもの、かつ簡単に鳴らすことのできる楽器を選んだ。サウンドブロックは音が混ざっても心地良い響きになるよう音を選んで準備した。

● **探究活動を実践する**

導入として、ピアノに合わせて手遊び歌を楽しんだ後、身近な物の音探しを行った。柔らかいボールを落とす音に気付き、2つ同時に落としたり、小さいカラーボールをトレイに入れて揺らしたりして音を楽しんでいた。また、ドングリが入った道具箱や、ブロックやままごとの道具など、普段なじみのあるおもちゃを使って音を生み出していた。

その後、新しい楽器に触れ、各々が奏でる音を聴き合ったり、皆で同時に音を出して重なりを試したりした。

● **振り返りをふまえた気付き**

見つけた音を言葉で表現してもらうと、子供たちはそれぞれ異なる表現をしていた。言葉での表現がより豊かになっており、活動の広がりが生まれている。

テーマ：音

● **テーマを設定する**

音は生活していく中で身近にあるものであり、自然に出る音、作り出す音など様々である。音は言語を越えてつながることができる素材でもあるため、音への探究から多様な人とつながり、表現していく楽しさを子どもたちに味わってほしいと考えたため「音」をテーマに設定した。

活動の流れ

●紙やセロハンなど、子供が破いたり丸めたりできる素材を準備し、紙の大きさやちぎる速さなどを変えながら音の違いを試した。
●いろいろな素材に触れたうえで気に入った音の素材を選び、空き箱やドングリ、紙コップなどの素材を使って、子供たちが考えるオリジナルの「太鼓」を作った。
●演奏者による和太鼓・平太鼓などの演奏を聴き、「太鼓を叩いてみたい！」という声が子供たちから上がっていたので、今後は和太鼓を叩く機会も設けていく。

活動事例　～いろいろな音を出してみよう、聞いてみよう（５歳児）～

● **問いを考える**

楽器や音の出る素材を使って様々な音を出し、「どのような音が出るか？」「素材や叩き方によって音がどのように変化するか？」について考えを深めた。

● **環境をデザインする**

鈴・タンバリンなど馴染みのある楽器から、コンガ・ボンゴ・カホンなど子供たちが初めて見る楽器も準備した。さらに、空き箱やプラスチック容器、空き缶など身近な素材も準備した。

● **探究活動を実践する**

楽器の紹介をした後に、好きな楽器を選んで音を出した。その後、歌に合わせて皆で楽器で音を出した。箱を並べてドラムのように叩いたり、空き缶や空き箱を叩く強さや速さ、向きなどを変えてみたりするなど様々な方法で音を出していた。

● **振り返りをふまえた気づき**

活動を重ねるにつれて音に敏感になり、いろいろな音に気付いてそれを言葉で表現する姿が見られる。今後は音を組み合わせたり、音楽の要素も入れていきながら音の幅を広げていきたい。

テーマ：穴

● **テーマを設定する**

絵本「はなのあなのはなし」をきっかけに、「穴」にはそれぞれ理由があることを理解し、絵本以外の「穴」について子どもと話し合ったところ、興味関心を抱く姿がみられた。そこで、探究する面白さに気づく体験と、遊びが深まることを目的に、穴をテーマとした。

活動の流れ

●それぞれの子どもが見つけた「穴」の写真を撮り、「穴」の写真をプロジェクターに写してみんなで共有する。また、それぞれの「穴」がなんのための「穴」なのかについて想像したり、ポスターにまとめる等の活動を行った。
●今後は、想像した「穴」について物語を作ったり、歌や音を作ってみる、紙芝居にしてみるなどの活動を検討している。

活動事例　～穴をつくる（５歳児）～

● **問いを考える**

これまで穴について様々に探究してきたことにより、「穴がなぜあるか」「穴には理由がある」ということが分かってきた。今回は、「紙にどうやったら穴が開くかな？」「空いた穴で何したい？」という問いをもとに、自分で穴を作ってみる。

● **環境をデザインする**

A4の紙、ボールペン、衝立、プロジェクター、スクリーン、海の映像

● **探究活動を実践する**

・紙にペンで穴をあけ、どうやったらうまくあくかを探究した。１か所に何個も開ける、一列に開ける、ちょっと浮かせる等、思い思いの方法で穴を開けていた。
・「どうやったらうまくあいた？」「はっきり見えるにはどうしたらいいだろう？」「ぷす、と音がした」など、集中して取り組みながら、先生と子供たち同士のやりとりがみられた。
・プロジェクターで映像をスクリーンに映し出し、紙の穴を通して見た時とそのまま見た時の見え方のちがいを探究した。

● **振り返りをふまえた気づき**

・穴から見える景色を見逃すまいと集中する姿が見られた
・同じテーマで長期間継続する活動だからこそ、一つの状況に対し多角的に考えることができ、人に聞く、図鑑で調べる等により深まりが見られている。

テーマ：布

● **テーマを設定する**

三多摩地域は、かつて養蚕業が盛んな地域だった。卒園児から蚕をいただき、故郷の歴史や背景に触れてほしいと思い、昨年度、蚕を園で飼い、繭から糸を紡ぐところを観察した。昨年度の経験をさらに発展させるため、「布」をテーマとすることにした。

活動の流れ

●マイクロスコープを用いて身近なものを拡大し、撮影した。園で飼っている馬、カメ、イグアナ等の動物や、床、鞄等を拡大し、撮影したものについての発表を子供達が行った。
●Tシャツを撮影したものに着目し、糸が織り込まれているところに注目した。
●機織り機を使って、実際に毛糸を使いコースターやマフラー等を作る活動も行っていく。

活動事例　～布の作り方を探究する（５歳児）～

● 問いを考える

「どんな風に見える？」「セーターと通園帽子の違いは？」などと問いかけながら、身近なものをマイクロスコープで拡大した。「三つ編みみたい」という感想を受け、「三つ編みを繋げたら洋服になると思う？」と問いかけ、布の作り方を探究した。

● 環境をデザインする

段ボール箱、様々な素材（フェルト、ハーフパンツ、シルク、体操帽子、通園帽子、ガムテープ）、マイクロスコープ、機織り機

● 探究活動を実践する

導入として、「？」マークの書かれた段ボールに、様々な素材（フェルト、ハーフパンツ、シルク、体操帽子、通園帽子、ガムテープ）等を入れ、マイクロスコープで素材を映し、何を拡大したものかを考えた。「三つ編みみたい」「ギザギザ」「ごつごつ」という感想が出る中、「髪の毛みたい」という子供の声を踏まえ、髪の毛もマイクロスコープで映し、布と比較した。

その後、グループごとに機織り機を用意し、機織り機に実際に触れ、友達と協力しながら布を織った。

● 振り返りをふまえた気づき

子ども達が素材を拡大したものをみて、編み方等の違いに気づき、「ごつごつ」「○○みたい」等、様々な表現ができる事を感じた。その後、様々な素材をマイクロスコープでみている子が増えてきている点から次の活動として、子ども達が「研究員」になり、様々な素材を調べて、子ども達の「発見」をみんなの前で発表する活動を取り入れていくことにした。

テーマ：数

● **テーマを設定する**

子供たちが身の回りの「不思議」を感じながら試行錯誤し、友達と関わりながら色々な発見ができるよう、科学的な視点を取り入れた様々な活動を行うことを目指してテーマとした。

活動の流れ

● 「数」を意識した活動を取り入れており、うどんなどの食材の長さを測り、自分の身長や先生の何人分の身長か、について考えてみたり、同じスプーン1杯の物でも、物質によって異なる重さを比べてみるなど、日常にある身近な物から、重さや長さなどについて理解を深める活動をしている。

● 前回は、空のペットボトルを転がしてみる、回してみる、などの活動を行った。その他、ペットボトルに日光を当て、水を入れた状態で試したり、画用紙を敷いたり、ペットボトルを横に置いたりしながら、反射の変化の様子を試す、などの活動も行ってきた。

活動事例　～ペットボトルを転がす（５歳児）～

● **問いを考える**

前回行った、空のペットボトルを転がしてみる活動をふまえ、様々な物を入れたペットボトルを木の板に転がし、違いを試す活動を行った。

● **環境をデザインする**

ペットボトル数本

水、油、洗剤、塩、砂糖、石、砂、木の板（滑り台のように使用）

● **探究活動を実践する**

ペットボトルを木の板で作った坂に転がし、ペットボトルに入れる物（水・油・塩など）や量によって、転がり方や速さ、転がる距離がどのように変わるかを試した。砂や塩などを入れると、手を放してもペットボトルが転がらなかったことから、ペットボトルを振ってみたり、洗剤と混ぜてみるなど、子供たちは様々な方法で試していた。

● **振り返りをふまえた気づき**

予想していなかったことが起こったとき、子供たちの驚く表情が見られた。今回はペットボトルはすべて同じ大きさのものを使っていたため、今後はペットボトルの大きさを変えてみるなどして、さらに活動を発展させたい。

テーマ：雨

● **テーマを設定する**

園の特色として、自然の中で主体的に遊ぶということを重視しており、今年度から雨の日の散歩を始めたことから、雨の日ならではの発見や面白さをさらに深めるため、「雨」をテーマとした。

活動の流れ

● 雨の日の散歩は今年度から始めたため、最初は雨に濡れたくない子供や、レインウェアを嫌がる子供が多かった。そこで、近くの公園で水たまりに慣れることから始め、徐々に雨に慣れていったことにより、雨の日の散歩を楽しみ、雨の日ならではの変化や楽しさに興味を持つようになった。

● これまでの活動では、雨上がりの植物園にて、水たまりで遊びながら水や土、泥の感触や音を楽しんだ。また、雨の日の他の公園では、いつもよりふかふかしている地面の感触の違いに気付いたり、ひさしから落ちる滝のような雨水を発見したり、雨が降ったことにより地面から出てきたミミズに興味を持つ、などの様子が見られた。

●今後も、可能な限り雨の日の散歩を行い、冬に見られる氷などにも着目しながら探究を行っていく。

活動事例　～雨の日の探究（２歳児）～

● **問いを考える**

雨の日の植物園にて、雨の日ならではの発見を重ね、晴れの日とどのような違いがあるかなどについて探究する。

●**環境をデザインする**

丈夫なレインウェア（上下）、長靴

● **探究活動を実践する**

この日は初めて小雨が降っている日に植物園に出かけた。水たまりの上を走ったり、水たまりに触れながら落ち葉の流れを観察した。その後、先生の言葉かけにより、木の葉っぱの上にある「しずく」に興味を持ち、葉や枝から「しずく」が落ちる様子を観察したり、しずくを探したりした。

● **振り返りをふまえた気づき**

当初は、公園の奥にあるクモの巣についた「しずく」に気付いてもらえたら、というねらいも持っていたが、子供たちの興味を尊重し、十分に時間をかけながら声かけを行うことで、少しずつ「しずく」に興味を持つ様子が見られた。

テーマ：風

● **テーマを設定する**

普段自然に触れる機会が少ない中でも、日常の遊びの中で、水や風など身近な自然に興味を持つ子供たちの姿から、興味関心をより深めていきたいと考えた。一方で、本で作り方を見ながら、様々な紙で紙飛行機を作って飛ばし楽しむ姿があったので、紙飛行機と風を組み合わせて探究活動を行うこととした。

活動の流れ

●サーキュレーターとスズランテープで風の流れを視覚的に感じながら、風の流れに乗せると紙飛行機を遠くまで飛ばせることに気が付き、吹き出し口の場所による飛距離の違いを確かめていた。
●折り方や紙質により、紙飛行機の形や強度が異なり、飛び方の違いがあることを発見した。また、数字やメジャーを用いることで、子供たちがそれぞれ飛距離の目標を立て、飛び方や飛ばし方を互いに見合う姿があった。
●公園では自然風により舞い散る落ち葉をキャッチする遊びを行い、作り出された風との違いを感じることができた。

活動事例　～大きな風の力を感じる（４歳児）～

● **問いを考える**

「紙飛行機をもっと遠くへ飛ばすにはどうしたらいいだろう」との問いをきっかけに、大きな風の力を感じ、使うことを試みた。

● **環境をデザインする**

大型扇風機、小型サーキュレーター、点数の的、花紙、風船、大きなビニール袋、パラシュート、子供たちのマイ紙飛行機

● **探究活動を実践する**

まず、的をめがけて紙飛行機を飛ばし、飛ばし方による違いを確認した。これまでの風との関わりから、「強い風があると遠くまで飛ぶかもしれない」との子供の声をもとに、大型扇風機を登場させ、追い風で遠くに飛ぶことを確認した。

その後、ちぎった花紙を落ち葉に見立てて、舞い落ちる紙をキャッチしたり、風船やビニール袋に風を集めて作った大きな風船を飛ばしたり、扇風機の角度を変えることにより、風船を浮かべて滞空時間の長さを測ったりした。

● **振り返りをふまえた気づき**

同じ素材でも子供ごとに感じ方が全然違うことがわかった。扇風機の裏に貼り付く風船に気づき、「どうしてくっついたんだろう」と、風が生み出される不思議さを感じる姿も見られたので、風や空気について、より深めてみたい。

テーマ：からだ

● **テーマを設定する**

子どもたちは自分の「からだ」を無意識に使いながら、日々生活の中でさまざまな不思議と出会っている。手を使った活動から、自分の「からだ」について興味、関心が深まることを目的とした。

活動の流れ

● 「触る」ことにより感覚が豊かになる時期である1歳児を対象に、手を使って様々な素材の感触の違いを探究するため、その日ごとに素材を決め、一つ一つの素材と丁寧に関わりながら、感触を十分に味わう活動を行ってきた。

● 麩や片栗粉の感触を探究した際は、水を含むと柔らかくなるなど触り心地が変化することに気づき、手でじっくり触ったり足に乗せたりしながら、様々な感触に興味を持つ姿も見られた。

活動事例　～感触を味わう（1歳児）～

● **問いを考える**

これまで使用した様々な素材を一同に用意し、色々な感触とその違いや変化をより深く味わうことをねらいとした。

● **環境をデザインする**

・素材：小麦粉、片栗粉、麩、パン粉、きな粉、糸こんにゃくなど
・素材や水を入れた容器
・空きカップやコップ、お皿など
・ビニールシート

● **探究活動を実践する**

活動の集大成として、様々な素材の感触の違いや変化を探究した。

ある子は、初めに小麦粉の感触を味わった後、水と混ぜることでぬるぬるした感触に変化し、水の量を増やすことでさらに感触が変わることに気づいていた。また、コップにきな粉と水を入れ、水が跳ねる感触を楽しむ姿や、パン粉を触って「ちくちくした」など、味わった感触を言葉で伝えようとする子供の姿も見られた。

● **振り返りをふまえた気づき**

参加した子供たち全員が、それぞれの素材とのかかわりに数十分間もの間没頭しており、集中力の持続が想像以上で驚いた。

他の子の活動から刺激を受け、自分も真似してみるところから活動が発展しており、集団で学び合う姿が見られた。

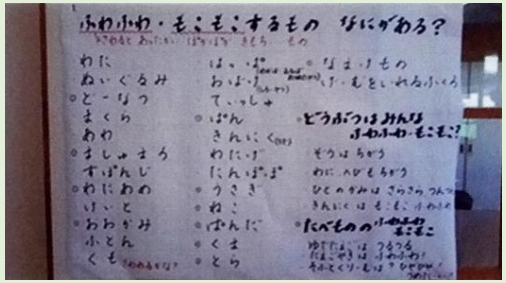
テーマ：ふわふわもこもこ

● **テーマを設定する**

夏に行った、石鹸とボンドを使った雲づくりの活動の際に、泡のふわふわとした感触が固まって変化していく様子に興味を持つ姿や、泡に触れて笑顔を見せている子供たちの様子が見られたことから、「ふわふわもこもこ」に焦点を当てることにした。

活動の流れ

●「ふわふわもこもこするものは何がある？」と問いかけると、「わた」「ぬいぐるみ」「どーなつ」「パン」など、様々なものが上がった。その後も、散歩先や給食中、家庭で発見したものを掲示物に書き足している。
●夏に泡遊びを行ったところ、泡をすくってジュースを作る、泡が減ると手で混ぜる、などの姿が見られた。その後、泡に色を付けてみたり、泡だけ集めたプラコップと水入りの物との重さの違いを発見したり、水面を揺らして油膜の色の変化を探究するなどの様子も見られた。
●子供たちの「ふわふわもこもこ」に対する興味関心をもとに、トイレットペーパーという素材を提案し、感触を探究する活動を行った。



活動事例　～トイレットペーパーの感触を味わう（４歳児）～

● **問いを考える**

トイレットペーパーの感触について、「どんな触り心地？」といった問いかけをもとに、感触の変化を味わう。

● **環境をデザインする**

トイレットペーパー、ボウル、水、絵の具、せんたくのり

● **探究活動を実践する**

まずはトイレットペーパーそのものの感触を全身で味わった。子供たちは身近なトイレットペーパーに興味津々な様子で、壁に掛けたトイレットペーパーを引っ張ったり、体に巻いてみる、においをかいでみる、など積極的にトイレットペーパーと関わる姿が見られた。

その後、トイレットペーパーと水やせんたくのりを混ぜたことによる感触の変化や、絵の具による色の変化についても探究した。

● **振り返りをふまえた気づき**

子供たちに「触り心地はどう？」と問いかけると、「ぬるぬる」「どろどろ」「少しふわふわ」など、様々な言葉でトイレットペーパーの感触を表現していた。

テーマ：物のなりたち（構造）について

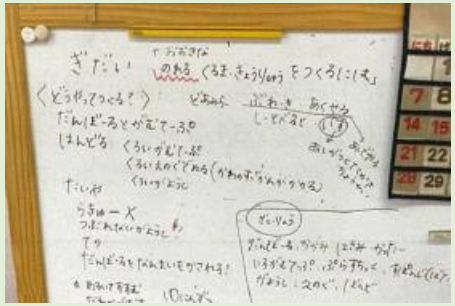
● **テーマを設定する**

子供達と遊びの展開を計画するために行った「子ども会議」にて、子供たちが読んだ絵本の“拾った靴を車に変える”というストーリーに興味を持ったことをきっかけに「自分たちも本当に乗れる車を作ってみたい」との意見が出たため、様々な素材・仕組みを工夫しながら車を製作する活動を行っている。

活動の流れ

●車を作るための事前の話し合いでは、「具体的にどのような車を作りたいか？」「どのように作ればいいのか？」などの問いをもとに、素材や仕組みについて検討した。また、「動く」とはどういうことなのか？(どうすれば物は動くのだろうか?)についても、グループごとの話し合いが活発に進んだ。

●「段ボールを切ったら作れるよね」と、具体的に使用する素材や装飾の案などイメージを膨らませる子がいた一方で、「段ボールだけだと壊れちゃう」などと、起こりうる問題点についての発言もあり、その都度みんなで考えを出し合い、車作りを実現させていこうとする様子が見られた。



活動事例　～車を作る（５歳児）～

● **問いを考える**

「どうやったら車が動くか？「タイヤやハンドルはどうやって動くのか？」など、それぞれ仮説を立てながら、グループごとに車を作る。

●**環境をデザインする**

段ボール・風船・ゴム・はさみ・マジック・ガムテープ・綿・カラーポリ袋・ストロー・車や乗り物の構造が載っている本など

✓　車を作るにあたって必要なものは、事前に子供たちから聞き取ったうえで用意した。

● **探究活動を実践する**

事前の話し合いで出たアイデアをもとに、車を製作した。車の仕組みについて考えながら試行錯誤しつつ、上手くいかなくても諦めずに車作りを行っていた。

● **振り返りをふまえた気づき**

車のデザインについて考えるグループや、黒い袋に綿を入れてタイヤを作るグループ、本や図鑑を参考にしながら車が動く仕組みについて考え、風船などを使って車を動かすことを試すグループなど、様々な姿が見られた。

自然

「土ってなんだろう」という問いをもとに、イモをきっかけとしながら、土をなでる、握る、崩す、掘るなどしながら土にじっくり触れ、感触を味わう。

どきどきわくわくなぜだろう

地球儀や図鑑を用いながら世界の国々について理解を深め、「世界」をテーマとした劇を、ストーリーや衣装、歌の振り付けなどを含め子供たちが自ら作り、表現する。

砂

砂を机の上でたたくと跳ねることを発見したり、砂の山を上り、砂を踏む感触を味わう。

大豆

「大豆からどうやって食べ物が出来るのか？」という問いを立て、大豆を畑で育て、手作り味噌熟成までの変化を観察する。

様々なテーマで取組が広がっています！

各園の特色を生かした様々な探究活動が行われています。
事例をご提供いただいた園の皆様に心より御礼申し上げます。

土

家から持ってきたどんぐりを観察し、種類について考えた後、どんぐりを土に植え、プロセスを探究する。

伝統文化・音

多様な獅子舞を参考に、色やデザインを自由に考え、オリジナルの獅子頭を作成したり、和楽器を使って音の違いを探究する。

色

食育の一環として給食に使うためにむいた玉ねぎの皮を活用し、皮を煮出して布を染めてみる。

えがく つくる

子供が興味・関心をもって主体的に取り組むことのできる制作活動に視点を当て、季節にちなんだ制作活動を行う。

骨

骨の構造や仕組みについて、人体骨格模型と自分のからだを比較しながら、理解を深めたり、様々な生き物の骨に実際に触れてみる。

見えないものを観ようとする

「納豆菌」や「ばい菌」など、身の回りの「よい菌・悪い菌」について調べ、顕微鏡でばい菌を観察したり、ばい菌の絵を描いて表現する。

活動を振り返って

本プログラムの実施による子供や保育者の変化等を定量的に捉えるため、
アンケートを行いました。

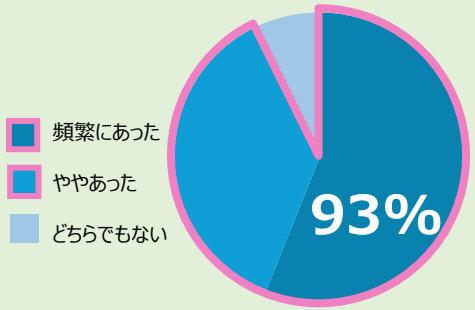
活動を振り返って

✓ **とうきょう すくわくプログラムの取り組みによる、子供や保育者の変化を定量的に捉える**ために、**14の実践協力園の保育者へアンケートを実施。**
✓ **同園の保護者**へ、**園での探究活動の実施に関する感想などのアンケートを実施。**（実施時期：2024年11月～12月）

保育者へのアンケート (回答数：41)

子供の変化について

Q.探究活動を行ってみて 子供の姿に驚くことがありましたか。

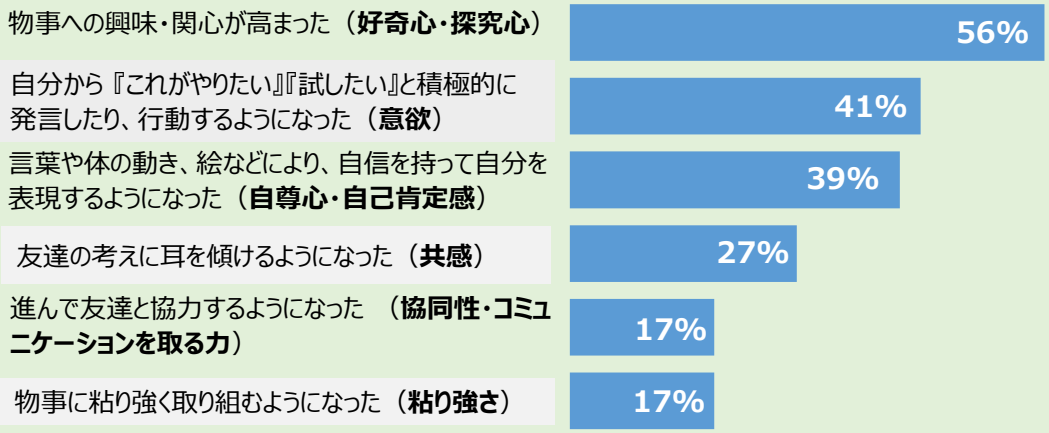


※上記以外に設けた「あまりなかった」、「全くなかった」の選択肢への回答はなし

Q.子供の姿に驚いた具体的なエピソード

- ✓ ひとつの事に興味を示し、**周りが気にならないほどに集中する姿**が見られた。
- ✓ **自分なりに感じたことや発見したことを言葉にして伝える・伝えようとする姿**が多く見られた。
- ✓ **他者を感じ合い互いを尊重する**など、**子供同士のつながり**を感じた。
- ✓ **子供同士で問いを生み出し、次の展開に導いてくれた**り、**探究を自分たちのものにする姿**が見られた。
- ✓ **日常にも子供の自主性がみられる**ようになり、**自分で考え、自分で行動する姿**を見ることができた。
- ✓ 今まで、通り過ごしていたことにも**目を向けてみたり、考えたり観察したりする時間が増えた**と思う。

Q.探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で 以下のような変化はあったと感じますか。 ※複数回答



CEDEPによるコメント

探究活動では、**0歳～5歳いずれの年齢においても対象をよく観察**したり、**積極的に参加する姿**があった。**積極性や集中、言語表現等の面でいつもとは異なる姿**があり、**0歳児も長く集中**していた。**子供同士が互いを尊重してつながり合い、大人の固定観念を超える発見をする**など、**保育者が驚くような姿**もあった。

日常生活の中では、**いずれの年齢も好奇心・探究心や意欲、自己表現の育ち**があり、**4・5歳児においては共感性や協同性の育ちの姿**も見られた。

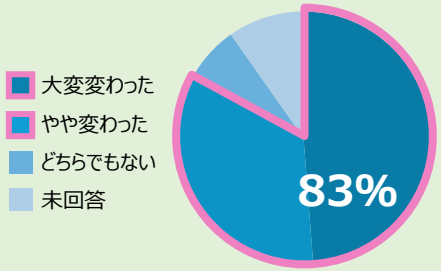
探究活動の経験が、こうした側面の**育ちにつながっている**可能性が示唆された。

活動を振り返って

保育者へのアンケート (回答数：41)

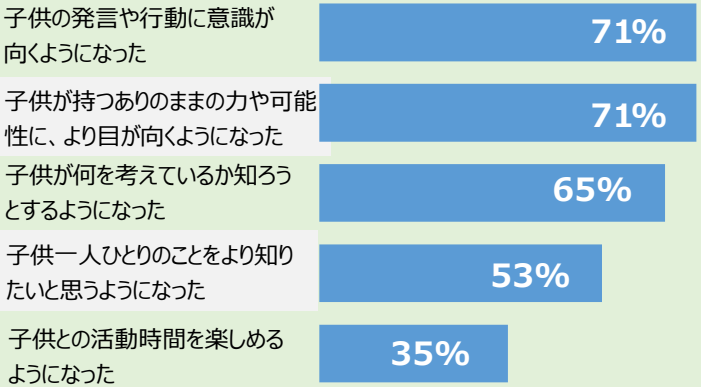
保育者自身の変化について

Q.子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じますか。



※上記以外に設けた「あまり変わらなかった」、「全く変わらなかった」の選択肢への回答はなし

Q.具体的にどのように変わりましたか。 ※複数回答

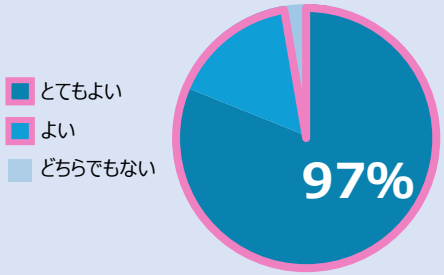


Q.探究活動を行って感じたことや気づき

- ✓ 子供の**柔軟さや面白さに気づく**と共に、**環境設定によって引き出せる子供の姿が異なる**ことが**大きな学びになった。**
- ✓ 探究活動を通して子供たちだけではなく、**保育者自身も成長させてもらえた。**
- ✓ 子供たちの「やりたい！」という気持ち、「なぜだろう？」などを受け止め、その思いを広げられるようにするにはどうしたら良いかを、**担任だけでなく園全体で取り組む大切さを学んだ。**

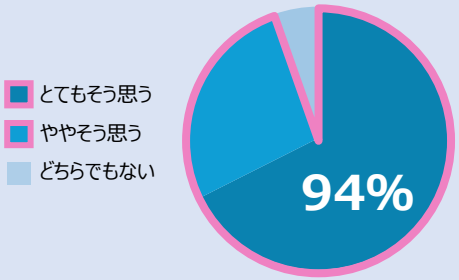
保護者へのアンケート (回答数：74)

Q.園で探究活動を実施していることについてどう思いますか



※上記以外に設けた「あまりよくない」、「全くよくない」の選択肢への回答はなし

Q.今後も、探究活動を継続してほしいと思いますか。



※上記以外に設けた「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の選択肢への回答はなし

Q.具体的な子供の変化

- ✓ **自分の意見をたくさん出せるようになり、自信がついた**ように思う。
- ✓ 自宅で絵や工作など、**自分のイメージを表現することを積極的に行う**ようになった。
- ✓ 色々なものを触ったり、**興味を持つ**ようになった。
- ✓ 園での**取組をとても楽しそうに話してくれる。**
- ✓ テーマを決めて探究し、**その瞬間にどう感じるか、どんな発見があったか、という体験は大切だと思うので、ぜひ続けてほしい。**

東京都

このプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。